

2019年11月25日

報道関係者各位

日本CCS調査株式会社

苫小牧におけるCCS大規模実証プロジェクト 「二酸化炭素(CO₂)の30万トン圧入達成」

日本CCS調査株式会社（本社：東京都千代田区、社長：石井 正一）は、北海道苫小牧市におけるCCS（二酸化炭素の分離・回収、貯留）実証試験事業において、目標値である二酸化炭素(CO₂)の圧入30万トンを11月22日に達成しました。

当社は、経済産業省の公募、「平成24年度二酸化炭素削減技術実証試験事業（国庫債務負担行為に係るもの）」の委託先に選定され、2020年以降の日本におけるCCS技術の実用化を目指すという国の方針の下、2012年度より苫小牧市にて実証試験を開始しました。（2018年度から2019年度までの2年間は、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「CCS研究開発・実証関連事業／苫小牧におけるCCS大規模実証試験」を受託）

2012年度から2015年度の4年間は、供給源となる製油所の水素製造装置から発生するCO₂を含むガスから高純度のCO₂を分離・回収するための設備と、地下へCO₂を圧入するための設備を設計・建設するとともに、既調査井から1坑の観測井への転用、2坑の観測井と2坑の圧入井を掘削しました。

同時に、貯留層へのCO₂圧入が周辺環境に影響を与えないことを確認するため、地層や地震に関するデータのモニタリングシステムを設置し、圧入前の基礎データの取得も行いました。また、CO₂が貯留される地層が海底下となるため、海洋汚染防止法に基づいた海水・海洋生物などの事前調査も実施しました。

2016年4月からは、年間10万トン規模の圧入を目標に、CO₂を苫小牧港の港湾区域内の海底下約1,000mの地層へ、引き続き2,400mの地層にも試験的に圧入してきました。

そしてこの度、11月22日（金）に、CO₂の圧入量が目標の30万トンを達成しました。

また、それにともないCO₂の圧入は、11月22日（金）に停止しております。

今後はモニタリング※を継続して実施します。

※モニタリング

圧入したCO₂の挙動（移動、広がり）を把握し、微小振動、自然地震を常時観測し、海洋環境調査を通じてCO₂の漏れがないか監視致します。

【CCS実証試験概要】

- | | |
|--------------------------------|------------------|
| ・設備の設計・建設など圧入準備開始 | 2012年4月より |
| ・二酸化炭素(CO ₂)の圧入開始日 | 2016年4月6日 |
| ・圧入30万トン達成日時 | 2019年11月22日 7時7分 |

【日本CCS調査株式会社 苫小牧CCS実証試験センター】

住所：北海道苫小牧市真砂町12番地

<会社概要>

名 称	日本CCS調査株式会社
事業内容	CCS技術の事業化調査および研究開発諸業務、実証試験
代表取締役社長	石井 正一
所在地	東京都千代田区丸の内一丁目7番12号
URL	https://www.japanccs.com/
資本金	2億4,250万円
設立日	2008年5月26日
株主	電力、石油元売り、エンジニアリング、総合商社、石油開発、鉄鋼、ガス、化学など34社

以 上

同時配信

苫小牧市政記者クラブ、北海道経済記者クラブ

【報道関係者からのお問い合わせ】

日本CCS調査株式会社
広報渉外部 広報渉外グループ
担当 田中、円谷
TEL : 03-6268-7610
FAX : 03-6268-7385